東邦学園広報
東邦キャンパス
vol. 112
平成 23 年（2011 年）７月１日
発行　学校法人　東邦学園
〒465-8515　名古屋市名東区平和が丘三丁目 11 番地
TEL 052（782）1241　FAX 052（781）0931
ＨＰ click! 検索　愛知東邦大学
東邦高等学校

被災地でガレキ撤去、校内でも大震災から学ぶ

10万人が犠牲となった関東大震災が起きたのは、東邦学園が創立した1923年でした。それから88年、３月11日（金）の東日本大震災はＭ９、南北500㎞・東西200㎞にわたって海底が崩れ動き、最高位40mに達する超巨大津波が襲いました。1000年に一度の規模。なお終息しない東電福島原子力発電所の事故によって、日本ばかりか世界・人類にとって未曾有の事態に直面しています。何ができるか――。

東邦高校では14日、校内放送で大震災をあらゆる視点から考えようと呼びかけ、まず生徒会が募金を始めました。愛知東邦大学も16日の卒業式パーティを簡素化、募金をしました。４月には学園側と高校生、PTAが一緒に話し合う会を開き、支援物資も集めました。

上の写真は、東邦高校の生徒24人と教職員２人が気仙沼市で被災家屋とガレキの撤去に携わった様子です。６月10日（金）夕刻に名古屋をバスで出発し車中泊、11日作業にあたり、再び車中泊で12日（日）朝に名古屋に戻る強行日程でした。（27ページに関連記事）

大学では５月27日、地域創造研究所主催でシンポジウムを開き、救助・捜索活動にあたった名古屋市特別消防隊の方から現地の状況について聞きました（右の写真）。生々しい様子も紹介され、学生から「自分も現地に行こうと思うようになった」という声も出ました。学園では被災地からの学生、生徒を特別に受け入れることとしています。皆さんのご協力、ご支援もお願いします。

新学長・新校長インタビュー

成田　良一学長・長沼　均俊校長

どんな少年でしたか
何よりも本が好きでした。特に小説です。父母も私に買い与えてくれましたが、それ以外に小学校の図書室の本を読みまくりました。これは、その後、大学まで続く習慣となりました。

なぜ教員になりましたか
以前は民間の研究所にいました。そういう研究環境に不自由さを感じ、数学やコンピュータの自由な研究を職業としたくて大学教員になった、というのがきっかけです。

教員以外でなりたかった職業は？
小説家、図書館司書

好きなもの
（本や映画、音楽、食べ物、言葉など）
筒井康隆、埴谷雄高、クリストファー・ノーラン、石井隆、レッド・ツェッペリン、バルトーク、Mathematica、BSD、料理作り、“Happy Hacking”、、、きりがないから、このあたりで。

嫌いなもの
筋が通らないこと。浅い思考や表現や言動。

どんな学校にしたいですか（メッセージ）
ショートスパンで考えれば、「就業力が身につく大学」というのが目下の課題です。長い目で見ると、学生それぞれが本学の教育を通じて大きく成長し、卒業時には自分の夢を叶える力がついている、そういう大学にしたいと思います。

Ryoichi Narita

愛知東邦大学　成田　良一　学長

東京大学教養学部基礎科学科卒業、東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻博士課程単位取得退学。富士通研究所、東邦学園短期大学教授等を経て、2008年4月愛知東邦大学教授。副学長を経て2011年4月学長に就任。

どんな少年でしたか

北海道に生まれ育ち、川や山など自然の中で夢中になって遊んでばかりいたせいか、小学校入学の頃は、規律ある集団生活になじまない指導に手の焼く少年だったと思います。低学年の頃は、日課の途中で帰ろうとして担任の先生から追いかけられたという記憶も残っています。
交友関係の広がりから仲間との絆の大切さを考えるようになったのは、中学生の頃からです。それは、部活動の経験が決定的でした。初めはバスケットボール部に所属し、その後、吹奏楽部に入り一所懸命練習に熱を入れました。

なぜ教員になりましたか

海外旅行が、直接の要因です。大学院の学生の頃、アフリカのモロッコを歩きました。そのとき知り合ったモロッコの若者から、「学校を出ても仕事がない」という国内事情や仕事を求め必死に生きる話を聞かされ、思わず自分自身を振り返りました。当時、生き方への考えや目標設定が何となく曖昧だった自分がいました。仕事をするのなら、自分が学び関わってきた専門分野で社会貢献できる仕事をと考え、教師になる決心が固まりました。

教員以外でなりたかった職業は？

「家具職人」。しかも、長野県松本の民芸家具の職人。藝大受験に続けて失敗した浪人当時、北アルプス登山のため毎年松本に行きました。落ち着いた街の雰囲気、そこに溶け込む温かな民芸家具に心惹かれました。職人という、特に己に厳しいプロフェッショナルな仕事に憧れがあります。松本には、その後も機会があれば足を運んでいます。

好きなもの（本や映画、音楽、食べ物、言葉など）

深まりはともかく、何にでも興味・関心を持つほうです。ですから、読書も特に好んで読むジャンルは決まっていません。知人から何か聞いたり薦められたりすれば迷わずに読みます。人間関係と同様で、1 冊の本の出会いが次の読むべき本を教えてくれるような、そんな広がりのある読書ができれば幸せだと考えています。

どんな学校にしたいですか（メッセージ）

生徒たちが、いつまでも自分たちの母校として誇りのもてる学校をつくることが、私たち私学の教職員の願いであり、大きな責務だと考えています。その教育づくりは、教職員だけの頑張りや生徒の若き才能だけではかなうものではありません。双方が力を出しあい刺戟しあう中で確かな成長や発展が生まれるものです。そういう意味で、勉強・クラブ活動・行事などいろいろな場面において、教員と生徒が一つの目標に向かって、血の通った確かなコミュニケーションができるような学校を理想として努力したいと思っていますし、東邦には必ずそれを実現できる風土があると信じています。

Masatoshi Naganuma

東邦高等学校　長沼　均俊　校長

北海道生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了。愛知県公立中学校教諭を経て、東邦高等学校へ。普通科美術デザインコース、美術科設置に関わる。教務部長、教頭を経て、2011 年校長に就任。

高校の行事

1年生学級合宿　クラスの和と友達づくり

1年学年主任　髙倉　清文

入学式、始業式、オリエンテーションと学校生活に少し慣れ始めた4月20日～22日一泊二日の学級合宿に出掛けました。生徒たちは前団と後団に分かれ、岐阜県恵那峡と三重県湯ノ山のホテルでそれぞれ過ごしました。

入所式後の校長講話では､｢高校生として生きる｣というメッセージに耳を傾け、これからの高校生活に夢を馳せる時間となりました。昼食は、野外キャンプ場でのバーベキューにミニハイクやクラス対抗のレクリエーションと互いに交流を深めました。ホテルへ戻り、学習と、クラスや個人の目標を考え高校生活への決意を高め、生徒・担任にとってたいへん意義ある2日間となりました。

2年生遠足（自然と親しみました）

2年学年主任　中林　幹雄

美味しい。イェー！

2年生の遠足は、A～Eがくらがり渓谷、G～I、Kが八風、FLMが八曽、JNが宇賀渓へ行きました。時々日差しも出て、散策には絶好の天気でした。その後、班ごとに各自が準備してきた材料を使って、協力してバーベキューを行いました。火をおこすのに苦労した班もありましたが、楽しく昼食が取れました。森林浴や川原の涼風に吹かれて、心身ともに和んだ一日になりました。友達とも色々な話ができました。

3年生遠足

3年学年主任　濵砂　孝

4月21日（木）、風もさわやかな快晴の中、クラス毎に選択した京都（清水寺・三十三間堂）・伊勢神宮（内宮・おかげ横町）・彦根城、長浜黒壁スクエアの3カ所に分かれ高校生活最後の遠足に行ってきました。学外でクラスとして、学年としてまとまって楽しい思い出を作る。仲間として、友人として、各人が自覚を持ち忘れることのできない思い出を作ってくれたことは、帰ってきたときの生徒たちの顔にその思いが溢れていました。昨年11月に行った修学旅行でも見せてくれた、

団結力と時間厳守の行動力を発揮し、その上で思いっきり楽しんでくれた遠足は忘れることのできないものになったと思います。

1年生開校記念行事

1年学年主任　髙倉　清文

初めての定期考査が終了した5月20日、体育館において開校記念行事が実施されました。プロジェクターを利用して、長沼校長より建学の精神と80余年の東邦の歩み、そして校訓「真面目」をわかりやすく解説していただきました。100周年に向けて、東邦高校が更に発展するために何をしなければならないのか、生徒一人一人が考える貴重な時間となりました。

平成22年度　高校卒業式

未来への夢に向かって

東邦高等学校の第62回卒業証書授与式が、2月26日（土）に本校体育館にて挙行されました。当日は天候も良く、穏やかで卒業式にふさわしい日和でした。

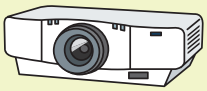
式典は、体育館に在校生・教職員・卒業生の父母約

500人が待つ中、卒業生545人がＡ組を先頭にその表情に緊張感を漂わせながら担任を先頭に整然と入場しました。式は、式次第にのっとり、全員による校歌斉唱より始まり、厳かな雰囲気の中ですすみました。卒業証書の授与は、クラスの代表者がその責任感を表情に漂わせ、それを見守るクラスメイトは緊張の中に晴れやかな表情で自らの代表を見守っており、各々の高校生活での思い出を胸に、新しい生活に対しての期待が感じられました。

在校生代表の生徒会秦崇倫君の心温まる送辞が、卒業生たちの高校での思いをさらに深くさせました。卒業生代表の鈴木李歩さんの答辞は、入学時からの３年間に思いを馳せ、これからの自分たちの将来に向けて力強く進むことを宣言しました。そして退場時は、卒業生全員が父母席から在校生の前を通り、参列者から温かい拍手を浴びて退場しました。このように式典は厳粛な中に心温まる内容を含んで終了しました。

式後は、各教室で最後のＨＲが各担任による餞の言葉を受けて、クラスメイトとともに名残を惜しみました。その後中庭において、恒例となっている部活動の生徒や在校生による卒業生の追い出しが華やかに行われ、後輩などに見送られ、３年間の思いを噛みしめながら校門を離れていきました。

高校卒業記念品　プロジェクター２台



平成22年度の高校卒業生から卒業記念品として、授業等で使用するプロジェクター２台が贈呈されました。

平成23年度　高校入学式

新たな一歩を緊張とともに

平成23年度の東邦高等学校入学式は４月６日(水)に新入生548人を迎えて、本校の体育館で行われました。前日までの悪天候で心配されましたが、当日は春の日差しがまぶしいほどで、その中で今を盛りと桜の花の満開の中、今年度より採用された新規格の制服に身を包んだ新入生が、誇らしげな表情で校門をくぐりました。

吹奏楽部が後輩の入学を祝って奏でる中、式典が始まりました。入学生は父母と隣りあわせで着席し、互いの表情はまさにその日の天候のように晴々としていました。長沼新校長は､｢私学は学校によって人材育成に特有の目的を持っている｣こと、本校は創立者の下出民義先生が掲げた「真に信頼されて仕事を任せられる人、社会に役立つ真面目な実業人を育てよう」という理念を掲げて「真面目」が校訓であることとその目的にたつ本校の歴史に触れ、私立学校である本校の存在意義を分かりやすく、その式辞の中で語られました。

これに対して新入生代表の松原雄明君(東陵中学出身)が「誓いの言葉」を述べ、新入生一同、心を新たにしていました。

式後、各教室で新担任からクラス方針や高校生活における心構えなどについて話があり、新たな夢と希望をもつことができました。さらに玄関付近において、生徒会主催の新入生歓迎のイベントがなされ、父母ともども本校に入学したことを実感する時を持つことができました。

大学の行事

経営学部地域ビジネス学科

一連の新入生歓迎行事

経営学部長　岡部　一明

今年も、新入生のオリエンテーション期間中、様々な新入生歓迎行事がもたれました。まず４月１日の入学式の後、参加した保証人(御父母など)の方々を交えて、食堂で歓迎イベントが開かれました。軽食テーブルを囲んで新入生、保証人、教職員が入り乱れて交流の輪。１年生授業担当者を初め教員が小さな台に登って次々自己紹介しました。これからの大学生活のこと、資格、留学、就職、クラブ、いろんな分野の情報交換に花が咲きました。

次いで４月４日の演習別説明会や学内ツアーの合間を縫っては、昼休みにＳ棟ロビーでもちつき大会が開かれました。急きょ用意された杵と臼のまわりに学生、教職員が集まり、かわるがわる臼をついてはできた餅をキナコやアンコで包みほおばりました。この日の夕方には新入留学生10人を中心に日本人学生、在学留学生を含め、星ヶ丘ボウリングで歓迎ボウリング大会も開かれ、盛況だったこともお伝えしておきます。

人間学部子ども発達学科

１・２年生合同オリエンテーション

人間学部教授　堀　篤実

人間学部子ども発達学科では、４月４日(月)、愛・地球博記念公園内の地球市民交流センターと愛知県児童総合センターにおいて、１・２年生合同のオリエンテーションを実施しました。

地球市民交流センターにて行った交流会では、１月から何度もミーティングを重ねて準備を進めてきた２年生の実行委員を中心にプログラムが進められました。１・２年生合同のグループにて折り紙や手遊びゲームなどが和やかな雰囲気で行われました。

愛知県児童総合センターでは、中塚繭実先生から「児童総合センターと子どもの遊び」についてお話を伺いました。センターでは「なんだかうれしい！2011」をテーマに大人も子どもも本気で楽しめる非常に興味深い内容が企画されていました。学生たちはグループに分かれ様々な遊びを体験したり、生き生きと遊ぶ子どもや子どもとやり取りをする親の姿から「なんだかうれいこと」を感じることができ、充実した時間を過ごすことができました。

手遊びゲームでなごむ１・２年生

教職課程履修学生 頑張っています！

教務課・教職担当　志水　廣己

愛知東邦大学に中高教員免許取得を目指す『教職課程』が設置されて、２回目の免許授与学年が今春卒業しました。１回目の昨春は、経営学部で商業の免許を取得した学生が２人誕生し、うち１人は教職に就きました。今春は、経営学部で商業の免許を取得した学生が１人、人間学部で保健体育の免許を取得した学生が31人誕生しました。うち、商業１人・保健体育６人が今春から教職に就きました。(他の免許取得学生の大半は一般就職しましたが、一部の学生たちはあくまで教職を目指し、教員採用試験にむけて頑張っているようです)

現在の４年生は、経営５人・人間26人に科目等履修生１人を加えた32人全員が、保健体育の免許取得を目指しています。この５～６月に24人が、９～10月に８人が教育実習に出かけます。本学では、卒業した母校で実習する学生と、教育委員会が割り振る公立学校で実習する学生が、ほぼ半々です。中学一種・高校一種いずれも、保健体育の免許取得には３週間の実習を必要とします。他大学の学生と一緒になっての実習は、学生にとってもたいへんいい刺激になります。３週間の実習前には不安と緊張を隠せない学生も、実習を終えると“青春ドラマの主人公”のような感激の笑顔で大学に戻ってきます。

大学の進路関係行事

就職課　貫名　正樹

大学では進路支援を各学年ごとに行っています。

今年度は、就職支援相談会事前研修や保証人対象就職説明会がすでに実施されており、７月の予定は次のとおりです。

後期には３年生全員を対象とした就職合宿等も開催されます。

【４年生対象】

７／４(月)～８日(金)　就職支援相談会

７／13(水)　就職支援相談会フォローガイダンス

【３年生対象】

７／13(水)　就職ガイダンス(外国人留学生対象)

７／15(金)　進路ガイダンス

【２年生対象】

７／11(月)　進路ガイダンス(人間健康学科対象)

７／15(金)　進路ガイダンス(経営学部対象)

自主実習を終えて感じたこと

人間学部子ども発達学科　水上　拓哉

私は、社会福祉法人慈光会の夕陽ヶ丘という児童養護施設で約２週間自主実習をさせていただきました。

平日は６時間、休日は８時間実習させていただき、一日の流れ、職員の方の指導、子どもたちの心の変化をしっかり見て学ぶことができました。

毎日子どもたちと走り回ったり、テレビゲームをしたり、中高生の恋愛相談にのったりしていましたが、子どもたちは私のことを単に「よく遊んでくれる人」としか思っていないのではないかと、自分の在り方に悩んだこともありました。しかし､「明日も来てね」と言ってくれる子どもの姿を見て、自分も少しは役に立てているのかなと嬉しく思いました。

自主実習は資格・免許取得のために行く実習とは違い、本来の自分を出して取り組めます。普段の実習では、評価を気にしてしまい自分らしさが出せない学生の方が多いと思いますが、自主実習では実習生としてではなく、一人の人間として子どもたちと向き合い、広い視野を持って行動でき、職業が自分に向いているのかを考えることができます。

平成22年度卒業証書授与式

平成22年度愛知東邦大学卒業証書授与式が３月16日(水)に、大学スチューデントホールアリーナにて行われました。経営学部141人に加えて、人間学部の第１期生130人が卒業しました。

大学卒業記念品　ウォータークーラー

平成 22 年度卒業生より卒業記念品「ウォータークーラー」が大学へ贈呈されました。Ｓ棟２階に設置され、練習をしている部活の学生がたいへん喜んでいます。

平成23年度入学式

４月１日(金)、大学スチューデントホールアリーナにて入学式が挙行されました。

当日は東日本大震災の被害に際し、黙祷がささげられた後、開式となりました。春を感じる暖かな天気に恵まれるなか、本年度の新入生352人が、これからはじまる学園生活に向け気持ちを新たにしました。

就業力育成支援事業

大学

社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的能力を身につける

平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に対して、本学は「『地域連携PBL』を核とした就業力の育成」という取組名称で申請を行い、昨年９月に採択されました。その後、準備作業も含めさまざまな事業を実施してきました。本年２月28日に名古屋観光ホテルで開催された、地域連携PBL推進シンポジウム「就業力育成と大学の教育改革――『社会的・職業的自立』につなげる地域連携PBL――」も、この事業の一環として行われました。そこでなされたパネル・ディスカッション「地域と協働した就業力育成――小規模大学での可能性――」では、学外からの視点も交えて、小規模大学の利点を生かす形で就業力育成と地域連携PBLについての議論がなされました。

さて、本事業での「就業力」は、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的能力のことを意味します。単に就職のために必要な能力でもなければ、いわゆる即戦力というものでもありません。社会人として生きていく上で汎用性のある基礎的な能力のことをさし、これが身に付いていれば、結果的に就職に有利であると言えるでしょう。

基礎力をつける

そうした就業力を育成する事業を推進するために、本年度は１年次科目に「東邦基礎Ⅰ・Ⅱ」という必修科目を新規に設定しました。これを履修することにより就業力育成にとって不可欠な基礎力を養成します。もちろんこの科目だけで就業力育成に十分というわけではなく、たとえば基礎演習など他の科目でもその内容、および実施形態を変えていくものもあります。

日々の学習や活動を記録するポートフォリオ

新カリキュラムから生まれる成果をさらに高め、就業力育成を推進するものとして、学生ポートフォリオシステムの導入と、就業力マイスター奨学生制度の新設を挙げることができます。前者は、学生自らが日々の学習や活動を記録するものです。自ら振り返って自分で設定した目標に向かって、自らの行動を意識的につなげていくものです。この記録を行うために、新入生全員に情報端末(iPod touch)を無償貸与し、さらに学内の一部に無線LANを敷設し、データの送信ができるようにしました。

就業力が向上した学生には奨学金も

また、後者の就業力マイスター奨学生制度は、就業力の向上を審査し、顕著な伸びを示した学生に対して奨学金が与えられる、という新しい奨学生制度です。学業成績だけではなく、学内外のさまざまな活動内容も審査対象となり、自らの目標を掲げてエントリーし、それに対しての達成度などによって審査されます。

これら以外にも本事業には多くの事業内容がありますが、今後機会があるごとに少しずつ紹介していくことにします。

大学　学修支援センターとして再構築

昨年度までの「学修教育支援センター」が再構築され、この４月から発足した新しい部署が、この「学修支援センター」です。以前の業務を一部継承してはいますが、組織・体制そして役割が大きく変わりました。主たる役割は、一言でいえば「就業力育成事業」の実施です。(就業力育成については、左ページ参照)

本センターは、それに関わる業務を含めて、次のようなサービスを在学生に提供しています。

(1)　学習相談・総合相談：勉強や生活上で心配なことがあった場合の相談

(2)　初年次学習の支援：出席の促進や受講記録のサポートなど

(3)　ミニ講座の実施：本格的な資格取得の準備などのための講座の実施など

キャリア・アドバイザーも常駐していますので、いつでも対応できます。

キャリアアドバイザー紹介

松丸 清信
(まつまる きよのぶ)

20数年鉄鋼メーカーに勤務し退社後、再就職支援会社⇒名古屋市住宅供給公社⇒名古屋南ハローワークを経て現在に至っています。
家族は妻一人犬一匹　東郷町に住んでいます。

安藤 健司 (あんどう たけし)

システム開発会社で 20 年勤務し、現在は Web サイト企画制作および雑貨の企画販売会社を経営。
小牧市在住で家族は５人。産業カウンセラー、キャリアコンサルタント。
趣味はゴルフと草野球。連覇に向け頑張れドラゴンズ！

西垣　一 (にしがき はじめ)

名古屋市南区道徳で、家族は妻とペット(猫デス)です。職歴は広告会社で 35 年営業一筋に勤務し、再就職支援会社やハローワークなどで延べ８年間、就労支援をしてきました。
１年前からギターを始めました。

稲垣 博昭
(いながき ひろあき)

私は以前小・中学校で勤めとさせていただいておりましたが、大学生の皆さんのお役にどこまで立てるか心配です。若い人たちと言葉を交わすことで、エネルギーをいただいています。皆さんに負けないように頑張ります。

高橋 恵理子
(たかはし えりこ)

４月からキャリアアドバイザーとして、センターの一番前に座っています。
現在、フリーで高校生や大学生を対象に就職支援の仕事をしています。
今回は、学生さんたちと違った形での関わりになりますが、精一杯務めます。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

森内 真希 (もりうち まき)

初めまして森内真希です。もともと自身の就職活動に失敗し、自分探しに苦しんだ経験から、大学生の支援をさせていただくようになりました。
コーチングが専門で、学生さんのお話を聴くのが楽しみです！よろしくお願いします。

船木 陽子 (ふなき ようこ)

私の仕事は、学生の声に耳を傾け、いろいろな思いを受け止めて考え共に成長することです。
彼らがより良い学生生活を送るためのサポーターとなるべく精一杯全力で取り組みます。よろしくお願いします。

冨山 悠子
(とみやま ゆうこ)

６月より勤務しております。まだまだ着任したばかりで慣れないことだらけですが、皆さんの学生生活がより良いものとなりますよう精一杯サポートをさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

別　辞

お世話になりました。

西部　真由美（元大学准教授）

本学創立時の2001年より経営学部の英語担当教員として勤務させていただきました。この10年間は、多くの学生とのふれあいを通じて、充実した日々を送ることができました。その一方で、家事と育児に追われ、毎日のことをこなして行くのに精一杯の、過酷な毎日でもありました。

赴任時は長男がやっと１歳でしたが、今や長男は11歳、次男が８歳となりました。今まで大学の教壇に立つことができたのは、やはり周囲の先生方、職員の皆様の「働く母親」に対する理解があったからに他なりません。愛知東邦大学は、男性も女性も同様に責任のある職務を任され、女性が生き生きと発言し活躍できる職場です。職場の皆様の理解があったからこそ、時間に制約のある中で効率を高めることによって仕事を続けて来られました。

思い返せば、この大学に赴任しようと決めた理由も、本学の前身である東邦学園短大が「女性の自立」に関わる番組をラジオで放送しており、それを毎回聴いていた私の父が本学への就任を勧めてくれたからでした。このような環境の大学で勤務させていただき、たいへん幸運だったと思います。

退職後は、他大学の英語を専門に教える学部に勤務する予定です。英語についてもっと知識と技能を深めて行きたいと思います。これまでお世話になりました皆様に心より感謝申し上げます。

退職にあたって

松村　幸四郎（元大学准教授）

平成20年４月より３年間にわたり、大学経営学部に奉職いたしました。経営学部における法学教育の在り方を常に考え、模索しながらの３年間でした。

「真面目」という東邦学園の校訓を感じさせてくれるような真剣な眼差しの履修者に出会う機会を、また、研究者・大学教員として私があこがれを抱き尊敬することができる諸先生方からいろいろなことを教えていただく機会をこの愛知東邦大学は与えてくださいました。深く感謝申し上げます。最後になりましたが、東邦学園の益々のご発展を切にお祈り申し上げます。

退職の辞

荒川　紘（元大学教授）

人間学部の創設とともに赴任して４年間、とてもいい勉強ができた。学生時代には物理学を学び、前の職場の大学では科学史や人間学を教えてきた私だが、ここ愛知東邦大学ではそれまでまったく未知の世界であった幼児教育を学び、教えるようになる。苦労もあったが、おかげで石川啄木の教育体験に関心を抱くようになって『教師・啄木と賢治』（新曜社）を上梓でき、名東の寺子屋研究会に参加して、江戸時代の教育史にも取り組むようになった。貝原益軒がすぐれた幼児教育の研究者であることもこの研究会ではじめて知った。私は人間学部の第１期生と一緒に東邦に入学し卒業する。学生と同じようにこの４月には東邦と別れ新しい場所に移る。でも、私の持論は定年80歳、幼児教育からは離れることになろうが、教育と研究の仕事は続けたいと考えている。気分は新卒の学生と変わらない。貝原益軒が本格的に著作活動を開始したのは70歳になってから、幼児教育論『和俗童子訓』を書いたのは81歳のときであった。

ごあいさつ

鹿野　輝三（元大学教授）

人間学部開設とともに着任し、４年間「人間と心理」と「比較心理学」を担当し、完成年度を迎えて退職いたしました。

元学長丸山先生、前学部長山本先生のお招きを受け

て着任し、在任中は山本学部長始め多くの教員・職員の方々にたいへんお世話になりましたが、微力で本学に何程の貢献のできなかったことをお詫びすると共に、皆様のご厚誼にこの場を借りて御礼を申し上げます。

大学院時代、教師・学生として共に学習・研究に励んだ肥田、堀両先生と共に、本学専任教員として仕事をさせていただけたのは教師冥利に尽きるものでした。

大学を巡る状況は厳しいですが、人間学部・愛知東邦大学は必ずや一層充実・発展されるものと確信し、ご繁栄を祈念いたします。皆様、ありがとうございました。

退職に際して

大島　正和（元高校教諭）

昭和48年４月１日より講師として採用され翌年４月より専任教諭として担任を持ちました。右も左もわからない私に先輩の先生方は温かく、やさしく、色々なことを教え、励ましていただいたことを今でも鮮明に思い出します。

担任を持って３年間は、先輩の先生方に恥もなく聞きまくり指導していただいたことを今でも思い出します。その後10年、20年過ぎていくにつれて余裕もできてきました。

そして、自分にとって忘れることができないことは、年間を通して欠点ゼロの目標を掲げ、達成できたことでした。また、もう一つは、クラブ活動で、ラグビー県大会ベスト４に入ったことです。この二つのことは、私一人の力でできたことではなく、教職員の方々の御尽力の賜物と思っております。また、38年間母校の東邦高校で後輩を育てる一助を担えたことに喜びを感じています。退職にあたり本当に感謝にたえません。ありがとうございます。

桜の季節に思うこと

髙井　茂雄（元高校校長）

東北関東の惨状を毎日憂えています。一瞬に奪われた命や日々の営み。先の暮らしが見えない不安。続いて放射能の恐怖。私自身も、伊勢湾台風では母方の親戚全部が屋根まで水に浸かり、また近いところでは東海豪雨で自宅が浸水するという体験をしています。今回の空前の被害とは比較になりませんが、被災者の思いは他人の物ではありません。

今年は遅めでしたが、きれいに桜が咲きました。被災地にも、倒れず残った桜が花を付けたそうです。

高潮に耐えて桜の便り有り
同胞（はらから）にも晴れの日を切に

先日、旧山陽道を歩いた折、阪神の被災地を東西に横断しました。外見的には見事に再建され、計画的な防災道路や施設の充実ぶりに感心しました。東北でも、真に故郷の復活と平和な生活の再興がされんことを願うのみです。

一方で、早晩やってくる東海地方の大地震のことが余計に心配になります。高校では、特に岡田氏や志水氏等の尽力で立ち上げた防災教育を益々発展させる必要があるでしょうし、また地域との関係では、避難所の運営方法を更に詳細に検討することも必要です。退職の挨拶が老婆心の表明になってしまいましたが、姿勢を正して物言うとすると、今はこれらの思いが先に立ちます。

但し、行動はというと、退職後の目標はこれといって無く、朝は小原庄助、昼は晴歩雨読、夜は酒場放浪と、不謹慎の楽しさを味わって居ります。

建て売りの住宅工事槌音高し
我が草庭には拙なるうぐいす　（４月初旬記）

新たな一歩を

河野　芳江（元高校教諭）

25年前の４月、大会議室から花束を抱えて出てこられる退職の先生から、「あなたが今度入られる方ですか。定年まで頑張ってね。」と言われたのは、

ついこの前と思っていました。「定年まではとても」と思っていたのですが、気がつくと60才。

私にとって、東邦高校は一番長い勤務先になりました。ここでの生活は、それまでの学校とはまったく異なる、たいへん刺激的な日々でした。泣いたり笑ったり、思いがけない経験もさせていただいたり。試練の場、楽しみの場であり、生涯の宝物となりました。

「人を相手の仕事を」と教職を選んで38年、不器用な私が、周囲の心配をよそに何とか定年を迎えることができたのは、教職員の方々、生徒の皆さん、保護者の方々、そして家族の、理解、協力、応援があったからこそと深く感謝いたしております。

４月から、また新たな宝物を捜しに一歩（かなりよたよたと）踏み出します。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

感　謝

稲垣　望（元高校教諭）

私にとって東邦高校は第二の母校です。いや、母校以上に愛着があり、充実した時間を過ごすことができました。たくさんの生徒たちが東邦高校で勉強し、部活動に励んで汗を流し、クラスメイトや先輩後輩との学校生活の中で笑ったり泣いたりして、青春時代の三年間を過ごしていきました。私はそれを共有したり傍らでかいま見たりして、たくさんの青春時代を体験しました。

東邦生はまっすぐで、時には心配するほど気のいい性質を持っていると思います。そんな生徒を育てる東邦高校は素敵だなと素直に感じます。東邦高校で教壇に立つことができたのは私にとってとても大きな財産で、心から感謝しています。まっすぐにのびやかに、東邦高校で培ったものをこれからも大切にしていきたいと思います。

退職にあたって

松浦　紀代史（元高校職員）

大学受験に失敗し、落ち込みフラフラとしていた18歳の春、当時職業指導部長をされていた故酒井豊先生から「母校で働いてみないか、大学は夜学に行ったらどうだ」と誘っていただきました。それからなんと41年余の年月が経ってしまいました。恩師の先生方を始めたくさんの教職員の皆様に励まされ、またご指導をいただいて無事定年を迎えることができました。真に感謝の念に堪えません。

高校生であった時も含め、東邦に育てられ成長してきたと思っています。赤萩町の校舎、平和が丘の旧・新校舎と三代の校舎で働くことができ、東邦は僕の生き様、人生そのものであったと、今更ながらにいろいろと思い起こされて、感無量であります。

最後になりましたが、母校が益々発展をすることを祈念いたしております。

37年間のお礼

浅井　美知子（元高校職員）

栄えある東邦学園に縁あって勤めさせていただきました。まだ男子校の時代です。さわやかな高校生が甲子園で活躍している学校で働ける喜びで一杯で、不安はひとつもなかったことを今でも覚えています。登校時には先生や生徒と星ヶ丘から話しながら歩いて登校しました。今は歩く先生は少なくなり、駅は一社に変わってしまいました。時代は変わり、男女共学・美術科の設置など東邦の歴史はこの先も綿々と続いていくと実感しております。

学園とともに歩ませていただき、すばらしい節目にも何度となく立ち合わせていただきながら、個人としては何のお返しもできていないことを悔やみつつ、でも楽しかった高校での生活、ありがとうございました。

新任教職員紹介

一言アンケート
①本学園就職の動機について
②趣味または私的に打ち込んでおられること
③今後の抱負について

牧　恵子（まき　けいこ）
所　属：大学　学修支援センター
出身地：名古屋市

①愛知東邦大学でも、「書く」ことを通して自分の周りを見つめ、表現できる学生さんが増えたらと思い、参りました。
②旅行好きです。八ッ場ダム川原湯温泉や山形県白布温泉など、鄙びた冬の温泉地やアートな直島が印象的です。一方、ロバミニエのクリスマス、イグアスの滝の壮大さ、ウィーン・シュテファン教会の雪と歌声など。これからも出かけてみたいです。
③４月に参り、自己紹介したばかりです。大学生の皆さんと授業をしたことがありませんが、「今」を「言葉」に留めていく活動をしていきたいです。

小柳津　久美子（おやいづ　くみこ）
所　属：大学　学修支援センター
出身地：名古屋市

①「就業力育成支援事業」の地域連携PBL「東邦プロジェクト」を担当いたします。企業経験、キャリア教育を専門としてきた自分が役に立てるチャンスではないか！と思いました。愛知東邦大学は学生、教職員、お互いの顔が見える組織。この距離感が魅力です。
②ねこを二匹飼っています。自宅ではねこに遊んでもらっています。ゴルフをほんの少々。とはいえスコアは恥ずかしくて言えません。
③実践型の学びの中で学生ひとりひとりに応じた就業力を身につけていくことを支援していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

西濱　由有（にしはま　ゆう）
所　属：人間学部子ども発達学科
出身地：岐阜県

①専門は「音楽」です。音楽は私たちの心を癒し、時には熱くする不思議な力を持っています。愛知東邦大学のみなさんと表現する喜びや感動を共有したいと思い、就職しました。
②雑貨屋やインテリアショップが大好きです。最近は蝶や気球、メリーゴーランドの形をしたモビールを、部屋に吊るして楽しんでいます。休日は美術館めぐりをして気分転換をしています。
③みなさんには音楽の楽しさや素晴らしさを、体いっぱいで感じて表現できる保育者になってほしいと思っています。音楽でみなさんの学生生活が少しでも潤いのある豊かなものになるよう、精一杯力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

中野　匡隆（なかの　まさたか）
所　属：人間学部人間健康学科
出身地：静岡市

①建学の精神である『真に信頼して仕事を任せうる人格の育成』に強く共感しました。まずは、学園の皆さんにとって私自身が真に信頼して仕事を任せうる人格となれるように体力の続く限り全力でプレイすることを誓います。
②スポーツ!!　sports（スポーツ）の語源はdisport（楽しむ、気晴らしをする）です。
　とにかく楽しければいいと思います。特定のスポーツに限らず、身体運動にもこだわらず、色んなことにチャレンジして楽しんでいます。
③元気があるから何でもやります!!

川口　明香（かわぐち　さやか）
所　属：高校　体育科
出身地：愛知県

①教師になることが中学生からの夢でした。幼い

頃から体を動かすことが得意であったということが一番の要素ではありますが、スポーツ性の貧血になった際に頑張っても歩くほどにしか走れないという時期を経験し、個々の能力に応じた授業について深く考えるようになり学ぶようになりました。母校で教師になるんだという強い想いが叶った形で東邦高校に来ることになりました。

②人とコミュニケーションをとることです。本や教科書だけではなく、人から学ぶことも大切にしています。

③生徒を思いやり、仲間を大切にし、自分自身も日々楽しむことで充実した毎日を送りたいと思っています。

澤田　洋平（さわだ　ようへい）
所　属：高校　保健体育
出身地：常滑市

①担任していただいた先生の影響で、教員という仕事に憧れをもっていました。
　母校である本校で生徒たちの教育活動に少しでも自分の力が役になればと思います。

②趣味は旅行です。私的に打ち込んでいることは部活動（サッカー）です。高校時代サッカーで全国大会に出場しました。横井先生の下、指導者として全国大会に出場したいです。

③まだまだ未熟者で学園のこと、学校のことをよく理解できていません。保健体育の教員として、生徒たちの教育活動を支え、有意義な学校生活にしていけるよう尽力していきたいと思います。よろしくお願いします。

中　健人（なか　けんと）
所　属：高校　理科
出身地：三重県

①普通科、商業科、美術科とさまざまな志を持った生徒が通っているところや、明るく活気のある雰囲気に惹かれたからです。

②音楽が好きで、ロックからクラシックまで幅広く聴いています。私自身は高校の頃から始めたクラシックギターを続けており、休日など時間をみつけては弾いています。

③なぜそうなるか納得でき、おもしろく感じられるような理科の授業を行っていきたいです。生徒たちと楽しく学校生活を送れるよう笑顔を忘れずにがんばります。

一言アンケート
①本学園就職の動機について
②趣味または私的に打ち込んでおられること
③今後の抱負について

木庭　信耶（きにわ　しんや）
所　属：高校　商業科
出身地：岡山県岡山市

①全国的に有名な学校であり、文武両道を見事に実践している学校であると思いました。そのような活発な学校の雰囲気と常に新しいことにトライしている学校の姿勢に魅力を感じ志望しました。

②みなさんと同様に毎日家庭においても読書することを心がけています。特定の分野にとらわれず、視野の広い人間になりたいと思っています。

③日々の生活には小さな失敗はつきものです。私自身も今まで多くの失敗を経験してきました。失敗を謙虚に受け止め、また結果を恐れることなく、みなさんと共に前進していきたいと考えています。勉強に部活動に全力投球をしましょう。

田村　友一（たむら　ゆういち）
所　属：高校　社会科
出身地：名古屋市

①「生徒一人一人の個性を尊重する」という、自分が理想とする教育が行えるのが東邦高校だと思い志望しました。実際に、東邦高校の生徒がいきいきと学校生活をおくっている姿を見て、この学校で働けるということに感謝しています。

②落語鑑賞です。大学時代は「落研（オチケン）」に入っていました。

③生徒たちが社会に出てからも活躍できるように、その成長の支えになることのできる教員になっていきたいです。そのためにも、自分も修行を重ね、成長していきたいです。

キャンパス短信

「21TOHO教育充実事業募金」
～ご協力をお願いしております～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでにも㈱イープロをはじめ多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部の増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただきました。

募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。また、それぞれの事務部窓口でも詳細を説明させていただきます。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただきますよう衷心よりお願い申し上げます。

東邦学園キャラクターグッズ第一弾完成

東邦学園キャラクターグッズとしてクッキーと包装紙が完成しました。大学田村ゼミの学生たちが意見を出し合ってつくられた包装紙には、東邦学園キャラクター『トーくん、ホーちゃん』が並んでいます。よくみると東邦学園創設者の下出民義氏に似たキャラクターも。

キャラクターの形をしたクッキーはフランス菓子店ミロアールの協力を得て作製されました。アーモンドサブレとチョコチップサブレの２種類があります。

新「進路指導室」開設に向けて

高校　進路指導主事　森田　美樹

これまで「進学指導室」と「職業指導室」に分かれていましたが、進学から就職まで、生徒一人ひとりが自分の持ち味を生かし、将来の目標づくりとその実現に向けて進んでいけるように、有意義な進路指導を行うべく、2011年度より「進路指導室」として一本化されました。夏休み中に改装工事が行われ、新学期には「キャリアセンター」も開設されます。多くの生徒たちが進路についての相談や調べ学習、発表などを自由に行える空間にしていきますので、生徒、父母の皆様、教職員にも気軽に利用していただきたいと思います。

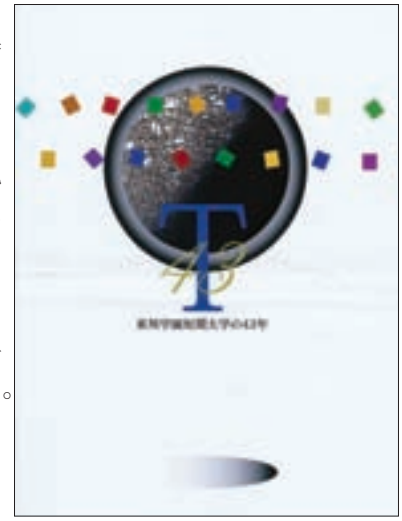
短大記念誌を発刊

短大記念誌編集委員会

このたび短大記念誌『東邦学園短期大学の43年』を発刊する運びとなりました。

短大は1965(昭和40)年に産声をあげ、43年の歳月を経て2008(平成20)年３月にその幕をおろしました。短大が果たしてきた役割と精神は愛知東邦大学に引き継がれています。

この冊子は時代の移り変わりとともに変遷を遂げた短大の軌跡をとどめています。編集に当たってはできるだけ多くの写真を収録しました。



国際交流

大学　EvCCでの語学研修

人間学部助教　照屋　翔大

2011年２月８日～21日の日程で、本学の姉妹校である「エベレットコミュニティカレッジ(EvCC)」(アメリカ合衆国ワシントン州)に学生10人と語学研修に行って参りました。２週間という短い時間ではありましたが、本プログラムをコーディネートしてくださっているマユミ・スミス先生のお力で、とても充実した時間を過ごすことができました。

２週間のプログラムでは、日々の大学での授業に加えて、隣接する小学校や保育施設で子どもたちに日本の文化を伝える活動(紙芝居や折り紙を披露しました。もちろんこれらも英語で行います)に取り組んだり、ボーイング社の工場見学、シアトル市内観光、行政施設訪問と、アメリカでの生活や文化を様々な側面から体験することができました。学生たちは英語でのコミュニケーションに不安があることを出発前に打ち明けてくれました。しかし、帰国時のホストファミリーとの別れを惜しむ姿から、この間に彼らが大きく成長したことを実感しました。これからも世界に目を向け、そこに積極的に飛び込んでいってくれることを願うばかりです。

ホストファミリーと一緒に思い出のキャンパスの前で

シアトルの街並み

高校　国際交流室からこんにちは

国際交流室長　伊藤　保憲

昨年末、本校から１人ニュージーランド、クライストチャーチ市の姉妹校、マリアンカレッジに１年間の留学に旅立ちました。内島美由さん。時折送られるメールには、毎日が楽しくて仕方がない様子が伝わってきました。順調に留学生活が始まったと思った矢先、あの大地震がクライストチャーチを襲いました。街のシンボルである大聖堂も倒壊し、約20年、数百人の生徒を派遣してきた本校にも緊張が走りました。その日のうちに内島さんの安否も確認でき、姉妹校の先生や生徒の安否も確認できて安心できたものの、姉妹校はほぼ完全に倒壊してしまったようです。本校では「姉妹校を助けよう募金」を行い、教員、生徒、保護者の皆様、卒業生の善意で約32万円の寄付を集めることができました。この場をお借りして皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

さて、今年度は国際色豊かなスタートとなりました。南京外国語学校から２人の留学生、周さんと李さんは７月中旬まで本校で学びます。すでに日常会話には不自由のない２人は、ほとんどすべての科目を２年M組で受けています。また、昨年９月にニュージーランドの姉妹校シャーリー・ボーイズからホームステイで本校にやってきたサム君は、留学生として再来日。日本語を中心に１年間勉強します。サイクリングが趣味で、自転車で各地を訪れてみたいそうです。

国際交流室は様々な国や地域との交流を広げたいと考えています。２月にはマレーシアの高校生との交流会が実現しました。イスラム教国の彼らをどう受け入れるか少し戸惑いもありましたが、楽しくいい交流会ができました。また、高校生だけでなく、特に中国や台湾の校長先生方の本校への視察も増えています。

東日本の震災で世界各国からの救援は、日本も国際社会の中に生きる一員であることを改めて感じさせました。国際交流を担う部署としてこれまで以上に異文化理解や、交流活動のあり方を考えなければならないと思っています。

マレーシアの高校生との交流（剣道体験）

大学　海外ボランティア

フィリピンへ人間健康学科の学生二人がボランティアとして参加しました。４年の伊藤美穂さんと酒井智弘君です。二人はそれぞれ別のチームで活動を行ってきました。

Q 参加のきっかけは？

（伊藤）

愛知万博の日本赤十字館の見学を通して「人を支えたい・貢献したい」という私の気持ちは引き出されました。明日を迎えるために必死な人が同じ地球に何人もいるということを強く実感し、自分にできることは何かと考え、海外ボランティアへ参加することを決意しました。

Q どんな活動をしたのですか？

約100人の孤児が暮らすSOS孤児院にて、約１週間ホームスティをしました。10人の子どもと一人のナナイ（母親代わり）と同室で過ごし、主な活動は、家事の手伝いと母親に代わって子どもたちと遊ぶことです。

Q 酒井さんは異なる日程で違うチームに参加したのですか？

（酒井）

私は「HELLO ALSON!（ハローアルソン）」（フィリピンでの歯科診療・予防へ出向いている歯科医師を中心としたボランティア団体）を知り、参加しました。現地に行くまでは、自分になにができるのかという不安と希望でいっぱいでした。活動は物資の配布や医療活動の補助（抜歯の手伝い等）を行いました。

Q ボランティアをした感想を教えてください。

今を最大限生きる！

（伊藤）

勉強・家事・遊び…何をするにしても、子どもたちの真直ぐで一生懸命な姿がまぶしく、ひとつ一つが刺激的でした。この経験から自分を客観視することができ、様々な気付きと、今後の成長材料や自信を得られました。家族が居ること・食事ができること・教育を受けられること…これらを当たり前と思わず感謝し、今できることを最大限尽くしていきます。

（酒井）

あまりにも日本とかけ離れた生活環境に衝撃を受けました。日本という国は恵まれています。その暮らしに満足して安心していまい、周りの国に目が行き届かなくなってしまいます。それだけでは平和な世界、戦争のない「笑顔の世界」は実現しないと感じました。私たちが少し目を向けるだけで、多くの笑顔を見ることができます。笑顔から笑顔がつながり、世界が一つの円になるようにしていきたいと感じました。

一緒に参加した仲間、現地の子どもたち、ありがとう！これからも関係を続けていきたいと思います。

川辺にある住宅

ボランティア仲間と（後ろ中央が酒井さん）

子どもたちと伊藤さん

虫歯予防のための講習会

クラブ活動 高校

硬式野球部

自慢のチームワークで日本一長い夏へ

硬式野球部　マネージャー一同

いつも「夢」見てきたあの舞台。私たちは「夢」では終わらせない。

「あきらめるな！」「行け！」と監督の力強い言葉が響き渡るあのグラウンドで、ひたすら汗を流し、プレーする部員たち。そんな部員たちのために必死になって指導してくださる監督やコーチの姿が、私たちマネージャーの目に強く焼きついています。

高校野球という青春時代に、球児なら誰もが夢見る「甲子園」への切符を掴むことができるのは、ただ一校のみ。その頂に立つために、平日は夜遅くまで練習し、土・日は県外強豪校と練習試合を行ってきました。夏の炎天下、日付が変わるまで練習したグラウンド合宿、日の出前から始まる真冬の新舞子合宿。365日、野球漬けで家にいるよりグラウンドにいる時間の方が長い中、いつの間にか野球部は「家族」になっていました。部員もマネージャーも涙を流し、辛いときは支えあい乗り越えてきました。120人近くいる部員の中でベンチ入りできるのは20人だけ。その選ばれたメンバーのため、Bチームは声を出して盛り上げています。その支えがあるからこそ、メンバーの練習が成り立っています。最近、平和公園などでメンバー、Bチーム関係なく朝練習をする部員のことを聞き、とてもうれしく思います。チームが一つになり監督がおっしゃる「勢い」がついている今、私たちも気持ちを強く持ち、サポートしていきます。

この夏、お世話になっている部長、監督、コーチ、両親、応援してくださるすべての方々の思いを無駄にせず、一戦一戦大切に戦っていきます。そして、必ず甲子園に行き、全国制覇を成し遂げます。ぜひ球場に足を運んでいただき、応援よろしくお願いいたします。

サッカー部

全国大会に向けて

サッカー部顧問　澤田　洋平

日頃から、サッカー部のご支援、ご協力に感謝いたします。昨年度は皆様の応援をいただき、春の新人戦準優勝と夏の沖縄全国総合体育大会に出場することができました。

今年度のチームカラーは『個性』です。３年生を中心にテクニックに長けた選手、スピード・強さのある選手が例年以上にいるように思います。しかし、個性が強すぎて試合で勝てなかったり、上手くいかなかったりすることが度々あります。サッカーは11人で行うチームスポーツです。一人でも自分勝手なプレーや怠慢な言動をするとチームは機能しなくなります。

また、現在東邦高校サッカー部は90人の部員を抱えています。サッカーのプレーももちろんですが、大規模な部活だからこそ学校生活などで自分勝手な行動は許されません。学校生活では、一人一人がクラス等での規律を守り、学業も怠らず必死に取り組みます。また、部活動では全国大会出場という目標を持ち、個性をもって激しいレギュラー争いをする文武両道な東邦生となるようなチームを目指したいと思います。

チーム一丸となり、日々の練習に励み、夏の秋田全国総合体育大会、冬の全国高校サッカー選手権に出場を目標にしています。ご声援よろしくお願いいたします。

ダンス部

心一つに…

高校ダンス部顧問　伊藤　惠子

３月21日、名鶴ひとみステージングダンススタジオ主催の第17回研究発表会において「ステージングダンス賞」をいただくことができました。応援してくださった皆様ありがとうございます。

今回、３年間お世話になったコーチが名古屋を離れることになり、皆で見せる最後の舞台だということと、東日本大震災で踊りたくても踊ることができない高校生へのエールを込めて、熱くパワフルな作品を心一つ

に踊りました。これからも支えてくださる周りの方々への感謝を心に刻みながら、部員と共にダンスの和を創っていこうと思っています。

吹奏楽部

第55回定期演奏会

吹奏楽部顧問　古野　達也

2011年１月６日、金山の市民会館で約2,000人の聴衆を集め、定期演奏会が盛大に開催されました。第１部クラシックステージでは、ディズニー映画「ファンタジア」で一躍有名な作品となったデュカスの交響詩「魔法使いの弟子」、また、ハチャトゥリアンの代表作よりバレエ音楽「ガイーヌ」を取り上げました。第２部ポップスステージでは、ジャニーズのアイドルグループ「嵐」のメドレーやアニメソングなど聞き馴染みのある音楽を取り上げました。第３部ステージマーチングでは､「Compost」をテーマに、スピード感あふれる東邦ならではのマーチングで聴衆をおおいに沸かせ、部員たちにとっても、生涯忘れることのできないよき一日となりました。

定期演奏会を開催するにあたり、学校関係者、保護者の皆様、吹奏楽部卒業生諸君、会場関係者など、多くの方々にご尽力いただき心より感謝申し上げます。

《第56回定期演奏会　予告》

2012年１月７日（土）

場所：愛知県芸術劇場大ホール

クラブ活動 大学

硬式野球部

平成23年度 愛知大学野球 春季リーグ戦 ご声援ありがとうございました

顧問　深谷　和広

平成23年４月２日から５月27日までの春季リーグ戦（３部）が終わりました。当初、南山大学から勝ち点を得るものの、それ以降はまったく勝ち点を得られず苦しい大戦が続きました。この結果４部との入替戦に臨み、６月４日、５日愛教大戦ではこれまでの熱い思いを爆発させて勝利することができました。関係者の皆さんからのご声援ありがとうございました。今回の経験を生かしてチーム一丸となって秋季リーグに臨みます。

男子サッカー部

サッカーを通して自分を磨く

人間学部人間健康学科４年　松井　智裕

こんにちは。今年度から愛知東邦大学男子サッカー部主将を務める松井智裕です。

私たちサッカー部は、東海大学サッカーリーグ２部に所属し､「東海大学サッカーリーグ１部昇格」という、高い目標を掲げ、選手、スタッフのコミュニケーションを大切にし、日々練習しています。

大学サッカーの良いところは、高校サッカーと比べると自由な時間が多く、自分が今何をするべきかを考え行動します。これが、日々の成長に繋がるのではないかと思います。同時に、責任ある行動が求められ、大人として大切な「責任感」も養える場であると考えます。大学サッカー４年間を通して、自信をもって社会に出られる人間に成長できると思います。

大学４年間でより多くのものを吸収し、プレイヤーとしても人としても、自分をより一層磨きあげていきたいと思います。

吹奏楽団

新生愛知東邦大学吹奏楽団「Green P's」スタート

2011年３月16日。大学吹奏楽団として初の卒業生を輩出しました。2007年の創部から団を引っ張ってきた

彼ら。第１期の、文字通り礎となった彼らも気が付けばもう卒業。月日の流れの速さを感じました。そして、４月。別れの後には新たな出会いがあります。今年は東邦高等学校からの入学者を含む、計12人体制で活動していきます。そんな第２期吹奏楽団の新たな愛称が「Green P's（ぐりんぴーす）」に決定しました。これからは、さらに愛される親しみ深い団体として、私たちを応援してくださるすべての方のために頑張ってまいります。学生たちの想いの詰まったこの愛称と共に、これからも私たち愛知東邦大学吹奏楽団を応援よろしくお願いいたします。

軟式野球部

いざ全国大会へ

軟式野球部主将　河本　拓也

私たち軟式野球部は今春に行われた中部日本学生軟式野球連盟１部リーグ戦で優勝し、全国大会への切符を手にすることができました。

昨春までは同連盟の２部リーグに所属していた私たちが翌年には全国大会に出場するほどの部活動になぜなれたのか？という質問をよくされます。その際私は「チームの地力、技術、選手などは一切変わっていません。ただ変わったのは全員の意識、それだけです。」と答えてきました。私たちが２部リーグに所属していた頃、監督やコーチといった指導者がいない、専用球場もないという条件で強くなれるわけがないと全員が口ずさんでいました。しかし、それはただの「言い訳」であり、やるからには勝ちたいという思いから、小さなことでも根をあげずに地道にやっていこうという意識へ変わりました。その後、「勝ってなんぼやろ」を合言葉に昨秋に１部昇格、そして今春このような結果につなげることができました。

チームは今、全国に向けて日々練習に励んでいます。自分たちの力がどこまで通用するのか、今夏、山口県下関市で開催される全国大会で試してきたいと思います。応援よろしくお願いします。

東邦ツーリスト

顧問　村上　道治

東邦ツーリストは、観光について学び、また旅行を通して仲間との絆が深め、そして思い出いっぱいの大学生活を送ることを目指すサークルです。

サークルの目標は２年生までに「国内旅行業務取扱管理者」、卒業までに「総合旅行業務取扱管理者」の資格を取れるように、先輩・後輩や友人同士で観光に関する知識を教えあっています。

過去の旅行先は、中部地区を中心に南知多の温泉や長野県にスノーボードをしに行きました。今後は、日本全国の観光地や鉄道研究ツアーに行きたいです。旅行の計画を立て、そして旅行に出かけ、楽しんで帰ってくることを心がけて活動しています。旅行が好きな方、少しでも興味を持ってくれた方、大歓迎です！

女子サッカー部

大学女子サッカー地域対抗戦に参加して

人間学部２年　寺田　真有　南埜　美香

大学女子サッカー地域対抗戦が、２月28日（月）から３月２日（水）にかけて兵庫県のアスコザパークTANBAで行われました。北海道、北信越、東関東、西関東、東海、関西、中国・四国、九州、関東Bの９チームで大会が進められ、東海地域は６位という結果に終わってしまいました。

この大会を通じて、普段一緒にプレーができない選手と試合ができ、なかなか対戦できない地域の選手と戦うことができました。私自身の何が通用し、何が通用しなく欠けているものは何かということが明確になり、成長していく上で良い経験となりました。

この地域対抗戦は多くの方々によって運営され、私たちは大会に参加できました。携わっていただいた方々に本当に感謝しています。今回の貴重な経験を今後に生かして成長していきたいと思っています。

2010(平成22)年度　東邦学園事業報告

1．総括

2010年度は、民主党政権が打ち出した新制度導入のあおりを受けて、公立高校の授業料無償化、補助金政策の見直しなど教育界も翻弄された。高校では、公立高校無償化の見合いで私立高校生に就学支援金が公立高校生と同額若しくは所得に応じて倍額が支給された。ただ、愛知では財政難とはいえ、従来の授業料軽減補助金分が大幅に削減されたため、公私格差は逆に拡大、生徒募集でより厳しい環境を強いられた。

大学の補助金は、自公政権時代に設けられた「就業力育成業務」や「未来経営戦略推進特別経費」など補助事業が、事業仕分けの段階で打ち切りとされた。全国の大学の猛烈な反発によって継続したものの、しばらく未定となり、業務遂行に支障が生じた。また2011年度予算は、財務省原案作成に向けて政策コンテストが行われるなど競争的資金に著しく比重が置かれ、短・中期的な大学運営すら視界不良の状態が続いている。

本学の管理運営では、大学が学校教育法に基づく日本高等教育評価機構による認証評価のほか「学校法人運営調査（文部科学省）」、「科学研究費調査（同）」、「指定保育士養成施設調査（東海北陸厚生局）」、「税務調査（千種税務署）」と諸官庁の監査を受けた。一連の作業や監査の指摘事項により、改善すべき課題が明らかとなった。

財務運営面では、大学人間学部が4学年・総学生定員が揃う完成年度を迎え、高校普通科の文理特進コースも3学年揃ったが、入学定員の未充足や大学での中途退学者数など学園全体の収支は先行き安定的とは言い難い状況が続いている。

2．主要事業の実施状況

⑴将来計画の実質化に向けての取組み

①中期事業計画に基づく教学・経営の推進

高校の中期事業計画が答申としてまとまり、大学の事業計画とあわせて各事業が整理された。また、「未来経営戦略推進特別経費」を日本私立大学振興事業団へ申請する際に提出した5年間の「経営改善計画」に沿いながら、経営改善初年度として取り組んだ。大学部門は「就業力育成プログラム」を策定し、2011年度より新たな教育活動を実行する準備を行った。

②第3次中期財政計画の立案

財政面では、5年間の財政シミュレーションを作成して経営改善計画を打ち出し、「未来経営戦略推進特別経費」(1,600万円×5年間）の中長期財政及び人事計画のシミュレーションに基づいて、第3次中期財政計画（2012年度～2016年度）のたたき台を立案した。今後は、大学校舎の耐震工事等キャンパス構想プランを組み入れ、第3次中期財政計画を確定する。

⑵教学・経営業務執行体制の確立と実行

①理事会の主体的な教学経営活動への参画

理事会の運営体制を強化するため、経営戦略・経営管理・教学・広報・社会教育連携と5つの領域の担当理事を決めた。この執行責任のもとで教学組織と連携して運営を進めた。学生生徒募集政策への関与に止まらず、高大連携授業や地域連携事業など学園全体として諸活動に成果をあげた。

②教学・経営組織と連携した重点施策への取組み

教学活動と経営の側面を調整する「教学法人協議会」は、位置づけや役割・運営を規程化し、意思決定プロセスの正規機関として明示した。政策の調整機能として教学組織との円滑な運営に有効に働いたと言える。

⑶理事会が主導する具体的な政策

①学生・生徒の募集活動

理事会のもとに「学生募集推進委員会」を設置し、募集戦略の立案など大学の募集活動を強化した。その結果、大学の4年ぶりの定員確保に大きく貢献した。

②予算編成と財務統制

予算編成・執行を統制・管理するため、新たな法人会計の電算システムを導入した。予算執行状況を明確化し、経費節約に取り組んだ。予算編成のあり方も検討し、問題点を整理した。新システム導入により、従来の経理処理を見直す機会となり、経理規程の見直しや業務改善に取り組んで内部統制の確立に前進した。

③大学と高校に一体感を育む全教職員間の高大連携

東邦高校の1、2年生ほぼ全員（普通科文理特進と美術科を除く）が、大学進学に関心を抱くような講座から希望科目を選択する「高大連携授業」を9月に実施した。学園として初の試み。「高大教職員交流会」も前年度に引き続き開いた。また、大学の教員免許更新講習には4講座で188人が受講、うち東邦高校教員が延べ24人参加した。地域交流事業として「納涼音楽祭」を8月に復活、地域から500人を超える方々が参加した。

④広報の充実と情報の発信

学園のイメージ向上やブランディング戦略の一つとして、学園イメージキャラクターづくりに取り組んだ。東邦学園に対する親近感・認知度を高めることを目的とし、高校・大学にとって共にふさわしく、学生、生徒や保護者、卒業生、市民から親しまれるイメージキャラクターを募集し、制作した。

⑤後援組織を活かした支援体制づくり

学園の収益法人である㈱イープロが第2期目に入り、学園との連携事業を拡大して業務の効率化や経費削減に努めた。学園支援団体である「フレンズTOHO」からも事業支援や助成金など、これまで以上の協力が得られた。今後は、学園から「フレンズTOHO」会員に対して連携できる内容を再度整理して、相互に堅固な関係を築いていく。

⑥新たな奨学金制度の展開

学園全体として様々な奨学金制度の一元化を図ろうと取り組んだが、所管する機関の設置や制度の設計までには至らず、課題の整理に終始した。

⑦情報インフラ基盤の整備

学園全体として統括した情報システムを構築するために、現状の実態調査を実施した。また、法人会計・人事・給与システムを導入したことにより、管理運営については諸情報の一元化をはかった。今後は、大学・高校における情報システムの管理運営の整備・充実を図るための体制を整える。

2010(平成22)年度　東邦学園財務概要

1．財政状況

収入では、大学人間学部が完成年度を迎えて、学園全体としての学生生徒数が2,806人となり、学生生徒等納付金が前年度を1億3,735万円上回った。補助金は、大学に対する国庫補助金が競争的資金の獲得などで2,407万円増え、1億7,690万円となった。高校に対する地方公共団体補助金は、就学支援金による助成制度の変更から5,142万円減少して6億9,552万円、補助金全体では2,735万円減少した。寄付金収入が減少し、前年度を936万円下回った。事業収入は受託事業が155万円減ったが、㈱イープロからの収入1,103万円によって増加し、1,464万円となった。

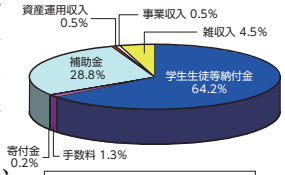
この結果、帰属収入合計は1億8,497万円上回る30億3,231万円となった。

支出では、教育研究経費が2,297万円減少、低利への借り換えで利払いが466万円減少した。人件費は退職者増で7,499万円増加して19億8,017万円、管理経費は広報費の547万円増、法人システム入れ替え等による委託・報酬・手数料の916万円増により、計2,197万円増えた。

消費支出合計は、前年度を6,329万円上回る29億2,424万円となった。基本金組入額は、機器備品・図書等に対する支出額と借入金返済による組入額である第1号基本金への組入額が8,094万円となった。

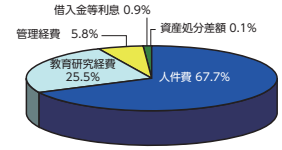
最終的に、帰属収支差額は1億807万円の黒字となり、前年度より改善した。

収入と支出を科目別比率でみると、収入では学生生徒納付金64.2%、補助金28.8%で全体の93.0%をまかなった。支出は人件費が67.7%を占めたが、教育研究経費も25.5%を占め、必要とされる支出割合を確保した。



帰属収入　30億3,231万円

一方、資金収支でみると、収入は2011年度新入生の納付金等の前受金等を含め37億8,748万円で、前年度より繰り越した17億9,587万円を加えると、合計55億8,336万円となった。



消費支出　29億2,424万円

一方、支出額は、人件費、教育研究経費、管理経費、借入金返済、施設・設備関係支出等36億3,542万円であった。その結果、差し引き19億4,793万円が次年度への繰越支払資金となり、前年度末より1億5,205万円増加した。

2010年度末の資産総額は、108億122万円で、内訳は有形固定資産67億1,850万円、その他の固定資産16億5,399万円および流動資産24億2,873万円となった。負債総額は、借入金、退職給与引当金、前受金など合計して37億7,313万円。

基本金は93億9,848万円となり、そのうち校地・校舎・機器備品・図書など教育・研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金が89億9,358万円となった。2010年度は、2,712万円の消費収入超過で、翌年度繰越支出超過額が1億482万円減少した。

2010(平成22)年度 資金収支計算書　（単位：千円）

	科目	21年決算	22年決算	差異
収入の部	学生生徒納付金収入	1,809,272	1,946,630	137,358
	手数料収入	39,624	40,019	395
	寄付金収入	14,312	4,813	△ 9,499
	補助金収入	899,785	872,430	△ 27,355
	資産運用収入	15,571	16,349	778
	事業収入	3,727	14,648	10,921
	雑収入	60,983	135,780	74,797
	借入金収入	205,774	369,000	163,226
	前受金収入	362,369	418,904	56,535
	その他の収入	545,885	468,651	△ 77,234
	資金収入調整勘定	△ 662,588	△ 499,739	162,849
	前年度繰越支払資金	1,684,465	1,795,878	111,413
	合計	4,979,178	5,583,363	604,185
支出の部	人件費支出	1,900,822	1,984,414	83,592
	教育研究経費支出	443,900	425,624	△ 18,276
	管理経費支出	141,153	163,449	22,296
	借入金等利息支出	31,284	26,622	△ 4,662
	借入金返済支出	471,486	858,786	387,300
	施設関係支出	5,526	11,908	6,382
	設備関係支出	35,723	22,190	△ 13,533
	資産運用支出	100,025	137,598	37,573
	その他の支出	83,746	31,429	△ 52,317
	資金支出調整勘定	△ 30,365	△ 26,591	3,774
	次年度繰越支払資金	1,795,878	1,947,934	152,056
	合計	4,979,178	5,583,363	604,185

2010(平成22)年度 消費収支計算書　（単位：千円）

	科目	21年決算	22年決算	差異
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,809,272	1,946,630	137,358
	手数料	39,624	40,019	395
	寄付金	15,418	6,052	△ 9,366
	補助金	899,785	872,431	△ 27,354
	資産運用	15,571	16,349	778
	事業収入	3,727	14,648	10,921
	雑収入	63,941	136,185	72,244
	帰属収入合計	2,847,335	3,032,314	184,979
	基本金組入額	△ 114,335	△ 80,949	33,386
	消費収入合計	2,733,000	2,951,365	218,365
消費支出の部	人件費	1,905,180	1,980,178	74,998
	教育研究経費	767,215	744,244	△ 22,971
	管理経費	147,577	169,549	21,972
	借入金等利息	31,284	26,622	△ 4,662
	資産処分差額	9,692	3,650	△ 6,042
	消費支出合計	2,860,948	2,924,243	63,295
	消費収支差額	△ 127,948	27,122	155,070
	合計	2,733,000	2,951,365	218,365
帰属収支差額		△ 13,613	108,071	121,684

2011(平成23)年度　東邦学園事業計画

1．創立100周年（2023年）に向けての取組み

(1)中期事業計画の見直しと教学経営事業の推進

大学と高校の将来ビジョンである「中期事業計画（マスタープラン）」は、2012年度より5年間の学園総合計画として策定する。計画を一部見直す大学部門と、答申がまとまる高校部門の計画を加えたうえで、「第3次中期財政計画」(2012～2016年度)によって、可能な限り財政的裏付けを図る。着手する事業の「実施計画（アクションプラン）」を確定するとともに推進体制を整え、全教職員の一致した教学運営として取り組む。

(2)第3次中期財政計画の策定

「中期事業計画」と時期を符合させ、2012年度から2016年度までの「第3次中期財政計画」を策定す

る。2010年度に採択された文部科学省特別補助「未来経営戦略推進経費」（５ヵ年・各年度1,500万円補助）で申請に際して提出した計画を踏まえたものとする。中期事業計画の具体化、とりわけ喫緊性がある大学校舎の耐震補強と、高校の諸改革に要する費用を含む財政計画とする。

⑶寄付活動の強化

学校法人等への寄付税制優遇化を見通して、理事会のもとに推進体制を組織化し、寄付総額の拡大に向けた活動を強化する。特に経済困窮による学生・生徒への奨学基金として広く財源確保に努め、合わせてその運用の制度設計を行う。

２．教学・経営業務執行体制の確立

⑴理事会の経営管理体制の充実

業務を着実に執行するため、理事会のガバナンスを強化し、担当理事の責任で学園事業を推進する各専門委員会を整備する。理事会は教学経営活動における政策調整機関「教学法人協議会」を中軸に教学組織との連携を強め、大学・高校各部門の重点施策である教育改革の推進支援と円滑な組織運営を図る。

⑵学園の自己点検評価の実行

学校教育法で義務付けられている大学の自己点検・評価、高校の学校評価に関して、管理運営の評価指標を作成、総合的な評価制度を確立する。外部評価員による学内評価機関の設置やアンケート調査による現状分析と評価など、客観的な評価活動として実施する。特に、文部科学省や日本高等教育評価機構などからの指摘事項への対応を中心に、法人の管理運営から大学・高校での教育研究活動に至るまで幅広く自主活動を展開し、組織機能全体の改善につなげる。

⑶学園としての一体感を育む高大連携

「高大連携協議会」を主軸に大学・高校の連携を組織的に図り、教育プログラムの拡充や共同事業を全学的な取組みとして政策化する。施設の共同利用や学園行事の実施、職員の人事交流などは、学園レベルで日常的に行う。

３．理事会が主導する具体的な経営教学政策

⑴大学と高校が連携した学生・生徒募集

大学・高校の募集強化のため、理事会専門委員会である「学生募集推進委員会」を中心に募集計画を立案し、全学的な取組みとして展開する。

⑵学生・生徒の就職支援

学園として外部団体との協力・連携を求めながら、大学・高校の施設設備や人員体制など支援環境を充実して、卒業後の進路決定を援助する。

⑶大学キャンパスの整備構想

大学校舎の耐震診断結果に伴い、大学と高校を一体としたイメージによる大学キャンパス整備計画の策定と施設設備工事に着手する。

⑷外部組織との協力体制の確立

PTA・後援会、フレンズTOHOや特に同窓会との連携を深め、様々な教学経営活動に対して強固な支援体制を築き、学園運営に活かす。また、特に学園収益法人である㈱イープロと事業連携を一層強固なものにして、合理的な業務運営に活かす。

⑸外部への情報公開

学校教育法施行規則等の改正に伴い、公的な教育機関として社会に対する説明責任を果たすとともに教育の質を向上させる観点から、本学園における経営や教育に関する詳細な情報をWebページや学園広報誌など様々な媒体を活用して、学内外のステークホルダーにわかりやすく丁寧に解説して、理解と協力を求める。

⑹事務業務システムの改善

学園の事務全体の運用や執行制度、リスク管理、業務フローなど全般を見直し、情報システムの活用と合わせて改善を通じて合理化を図り、業務内容の質的な向上を図る。特に、財務統制の観点から、新規導入した会計ソフトを活用して経理機能を適正化する。

⑺情報システムの運営整備

大学・高校における情報システムの管理・運営業務を学園として一元的に管理するよう法人が統括して運営環境の整備を図る。

平成23年度 資金収支予算書（概要）

（単位：千円）

科目		22年度補正	23年度予算	補正との差額	内容
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,938,870	1,969,160	30,290	大学入学者数の増加、高校生徒数の減少
	手数料収入	40,850	41,820	970	
	寄付金収入	8,800	8,800	0	
	補助金収入	848,580	784,790	△ 63,790	大学補助制度の変更、高校経常費補助の減額
	資産運用収入	15,440	15,350	△ 90	
	事業収入	10,940	11,390	450	
	雑収入	128,700	27,200	△ 101,500	退職者減による退職金交付額の減少
	借入金等収入	368,980	0	△ 368,980	22年度は、借り換えによる借入金
	前受金収入	354,140	357,730	3,590	
	その他の収入	460,450	473,360	12,910	
	資金収入調整勘定	△ 493,560	△ 385,880	107,680	
	前年度繰越支払資金	1,795,878	1,765,938	△ 29,940	
	合計	5,478,068	5,069,658	△ 408,410	
支出の部	人件費支出	1,993,080	1,852,290	△ 140,790	大学教員の減員。高校の退職者減
	教育研究経費支出	460,350	479,110	18,760	大学スポーツ奨学金の増額、高校学校評価対する取組み経費
	管理経費支出	168,120	168,360	240	
	借入金等利息支出	28,210	22,840	△ 5,370	借入金の借換えに伴う支払利息の減少
	借入金等返済支出	858,800	431,810	△ 426,990	借換えによる返済額の減少　愛知県大規模施設償還補助金返済額の減少
	施設関係支出	5,410	27,240	21,830	耐震補強対策に伴う設計料（17,000千円）の増加
	設備関係支出	26,880	27,440	560	
	資産運用支出	136,620	128,780	△ 7,840	
	その他の支出	35,040	29,640	△ 5,400	
	予備費	30,000	30,000	0	
	資金支出調整勘定	△ 30,380	△ 29,640	740	
	次年度繰越支払資金	1,765,938	1,901,788	135,850	
	合計	5,478,068	5,069,658	△ 408,410	

平成23年度 消費収支予算書（概要）

（単位：千円）

収入の部 科目	22年度補正	23年度予算	補正との差額	支出の部 科目	22年度補正	23年度予算	補正との差額
学生生徒等納付金	1,938,870	1,969,160	30,290	人件費	1,991,370	1,866,450	△ 124,920
手数料	40,850	41,820	970	教育研究経費	779,690	786,290	6,600
寄付金	9,880	9,840	△ 40	管理経費	174,540	174,060	△ 480
補助金	848,580	784,790	△ 63,790	借入金等利息	28,210	22,840	△ 5,370
資産運用収入	15,440	15,350	△ 90	資産処分差額	3,310	1,000	△ 2,310
事業収入	10,940	11,390	450	徴収不能額	250	0	△ 250
雑収入	128,700	27,200	△ 101,500	予備費	30,000	30,000	0
帰属収入合計	2,993,260	2,859,550	△ 133,710				
基本金組入額	△ 118,100	△ 125,040	△ 6,940	消費支出合計	3,007,370	2,880,640	△ 126,730
消費収入合計	2,875,160	2,734,510	△ 140,650	消費収支差額	△ 132,210	△ 146,130	△ 13,920
				合計	2,875,160	2,734,510	△ 140,650

学園の人事構成

【2011年7月1日現在】

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆役員・評議員

理事長：榊　直樹
理事：成田　良一、長沼　均俊
山極　完治、磯部由美子
塩澤　敏明、加藤　明彦
福島　一政、増田　貴治
監事：石川　元廣、鈴木　基仁
評議員：岡部　一明、山極　完治
堀田　時弘、古市　久子
磯部由美子、村田　悟
水谷　光博、森井　勝也
戸谷　正行、森川　早苗
塩澤　敏明、鈴木　健治
中野　修宏、中西　勇成
大矢　正成、川竹　敬三
川村　秀男、柴田長兵衛
遠山　眞人、鍋島　知行
嶺木　昌行

◆法人事務局

法人事務局長：増田　貴治
法人事務局次長：堀田　時弘
以下大学同役職兼ねる
総務・経理課長：二宮加代子
企画課長：西　弘美
広報課長：堀田　時弘
総務課長補佐：藤川　久孝
広報課長補佐：奥田　緑
〃：村上　道治

◆大学

学長：成田　良一
経営学部長：岡部　一明
学長補佐・地域ビジネス学科長：浅生　卯一
人間学部長：古市　久子
人間健康学科長：澤田　節子
子ども発達学科長：矢藤誠慈郎
図書館長：浅生　卯一
情報システムセンター長：髙木　靖彦
学修支援センター長：中山　孝男
学修支援副センター長：澤田　節子
地域創造研究所長：御園慎一郎
入試委員長：杉谷　正次
教務委員長：田村　豊
就職委員長：深谷　和広
学生委員長：宗貞　秀紀
図書館委員長：浅生　卯一
情報システム委員長：髙木　靖彦
地域国際交流委員長：小野　隆生
総務委員長：山本　正彦

◆大学事務局

学長補佐・事務長：増田　貴治
事務次長：堀田　時弘
〃：齋藤　周一
教務課長：藤井　玲子
学生課長：柴田千登勢
就職課長：長島　賢
学術情報課長：齋藤　周一
教務課長補佐：新村　健
就職課長補佐：貫名　正樹
学生課長補佐：阪口　将史
学術情報課長補佐：黒柳　好子

◆高等学校

校長：長沼　均俊
教頭：佐々木恭裕
〃：藤本　紀子
校務部長：寺島多岐夫
教務部長：岡本　洋美
生活指導部長：村田　悟
事務部長：袴田　克彦
事務部課長補佐：山田　智代
渉外企画室長：小嶋　裕人
進路指導主事：森田　美樹
国際交流室長：伊藤　保憲
保健指導主事：渡邉　素幸
メディアセンター長：森井　勝也
生徒会正顧問：水谷　光博
学年主任第1学年：髙倉　清文
学年主任第2学年：中林　幹雄
学年主任第3学年：濵砂　孝
教科主任　国語科：松永　早苗
〃　社会科：志水　和史
〃　数学科：宮田　賢二
〃　理科：古谷　嘉
〃　保健体育科：桜井　秀樹
〃　芸術科：岡本　増吉
〃　英語科：松原　聡子
〃　家庭科：田中　瑞穂
〃　商業科：大上　雄示

パートナーシップ・インフォメーション

フレンズ・TOHO

「フレンズ・TOHO」は 知と情報の双方向伝達を仲立します

「フレンズ・TOHO」は、創立16年目を迎えました。学園を支援していただく個人と法人の組織です。もちろん一方的な学園支援というだけでなく、学園は会員である個人や法人へ学園が持っている知的財産を還元できるよう努力します。また、会員同士が互いに学びあうことができるような機会を設定いたします。法人会員の皆さまにはビジネスチャンスが生まれるような関係を生み出したいと考えています。

６月９日(木)に山田真哉氏(公認会計士・作家)を招き「経営につながる“会計の本質”をつかむ」お話を伺いました。この講演は2011年度「フレンズ・TOHO」総会の記念講演です。

私立学校は地域に信頼され、その支持によって成り立つ部分が大きいと言えます。知と情報が学園から地域への一方向ではなく、双方向の伝達がなされて学園も発展していくことができると思われます。その仲立ちができるのもこの支援組織「フレンズ・TOHO」です。

保護者・保証人の皆さん、教職員の皆さん、東邦学園の教育に関心と期待をお寄せくださる皆さん、ぜひ「フレンズ・TOHO」にご参加ください。

「フレンズ・TOHO」が企画する 多彩な企画にご参加ください

◇その１

「“はやぶさ”でえられたこと、“はやぶさ２”で目指すこと」。このテーマでお話を伺うことになっています。「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」から回収した微粒子が分析され、イトカワのもとになった天体は約45億年前に誕生したのでは…。講師は高木靖彦愛知東邦大学教授。七夕の夕べに、星に思いを寄せ、惑星と生命を考えます。会場は愛知東邦大学。７月７日(木)。

◇その２

“伊吹山の草花を楽しむ”ための「自然と親しむ会」例会を行います。７月30日(土)、８合目から頂上付近に広がる草花を「伊吹山もりびとの会」の説明を聞きながら散策します。北方植物の南限、南方植物の北限であるこの地、伊吹山は多くの種類の植物に出会えます。古来より、モグサで有名なところです。信長が薬草を栽培させたところでもあります。

◇その３

幼児教育に携わっている保育士の皆さんと保育に関心のある方々を対象に、「身体表現を豊に楽しく」－現場に役立つ実技指導－をテーマに３回連続講座を実施します。幼児教育関連講座は、昨年に引き続き２度目。人間学部学部長 古市久子愛知東邦大学教授が行います。８月24・25・26日の３日間。会場は愛知東邦大学。

◇その４

「地域ビジネスの元祖、近江商人の商い手法(三方よし)を知る」ため、近江長浜を訪れます。解説に同行をお願いするのは、愛知東邦大学「地域創造研究所」顧問 森靖雄先生。10月８日(土)を予定しています。

いずれの講演、研修、講座も一般の方もご参加いただけるようにしています。どうぞご出席ください。有料の講座、研修は会員価格があります。詳しくはお問合せください。問合せ先は、東邦学園「フレンズ・TOHO」事務局(052-782-1241)。お待ちいたしております。

東邦高校同窓会　東邦会

代議員会・懇親会を開催

去る５月14日名古屋ガーデンパレスにおいて、同窓会東邦会代議員会が行われました。今年度は役員改選の年でもあり、新たな役員体制のもと今年度の事業計画も含めた議案はすべて承認されました。その後行われた懇親会では、愛知東邦大学の吹奏楽団による震災チャリティーコンサートが行われました。恩師の先生方を囲み、旧交を温めることができた良い１日となりました。

TOHO 卒業生インタビュー 東邦の輪（わ）

加藤　寿一さん　東邦高等学校 第35回卒業生
中国家庭料理『菜の花』オーナーシェフ

profile
東邦高等学校卒業後、東京のホテルオークラに入社し、中華部門で料理人となる。12年前に名古屋市千種区にて中国家庭料理店『菜の花』を開店、現在に至る。

『段取りを考える』がすべての仕事の基礎

■どんな高校生活でしたか？

東邦高校はその頃男子校で、平和が丘の旧校舎で学んでいました。先生もキビキビした素敵な先生が多かったです。私は野球部に入部しました。４月に入部したのは250人。練習がきびしいので、１カ月で半数に減り、最後まで残ったのは24人でした。３年間バッティングピッチャーでしたが、野球がとにかく面白かったです。

■ホテルオークラに入社するのは難しかったのでは？

東邦高校からは初めての就職者でした。倍率は14倍。ホテルオークラの和食の親方が東邦の野球部を知っており、根性があるだろうと口を利いてくれました。

■仕事は大変でしたか？

厳しかったですね。朝２時から宴会の準備をし、お客様の人数変更にも即座に対応しました。食器を置く位置など細かな間違いも許されません。かなり神経を使いました。仕事をしながら、次の仕事を考える。仕事は手だけじゃなく頭も使うのです。『段取りを考える』がすべての仕事の基礎ということを学びました。

■お店の様子は？

おかげさまで、東邦高校の先生や卒業生も来てくれます。校訓のように『真面目』にやってきました。これからも頑張ります。

加藤さんはとても穏やかな人でした。取材に伺った日は平日にもかかわらず、お客様が大勢来ていました。

秦　麻里奈さん　愛知東邦大学　2010年３月卒業生
愛知みずほ大学瑞穂高等学校
商業科非常勤講師

試行錯誤を重ねて最良をめざす

■教師生活はいかがですか？

気付けば、教師になって１年が過ぎました。

一般企業の多くの会社は研修期間があると思いますが、教師には研修期間が一切ありません。出勤１日目から１人で50分しっかりと授業を行わなければいけません。『教壇に立ったら新米教師であっても、ベテラン教師であっても生徒にとっては同じ教師』その言葉を胸に１年間必死に頑張ってきました。

初めのうちは授業の１コマ１コマが緊張で、余裕もなく、ただ授業を行うことしかできませんでしたが、授業の回数を重ねる毎に私の中で余裕が生まれ、クラスによって、また、その時のクラスの雰囲気によって授業のやり方を変えたりと試行錯誤を重ね、私らしい授業というものを見つけていきました。

高校生という多感な時期の生徒と接するのは難しいこともありますが、とても働き甲斐を感じることができます。初めての体験に戸惑うこともたくさんありますが、私は教師になって良かったと心から思っています。

■大学時代で印象に残っていることは？

大学時代を振り返ると本当に楽しい思い出ばかりです。そして先生方や職員のみなさんにたくさん支えていただきました。３年の時、教職の授業で、模擬授業が上手くできず悔し泣きしたことがあり、「諦めるな！麻里奈ならできる！」と職員の皆さんに励ましてもらったこと、今でもはっきり覚えています。本当にあの時、諦めないでよかったと心から思います。

ただの学生と教授、学生と職員という関係ではなく、学生１人１人のことを考え、とても気にかけてくれ、多くの人と深く関わることができる東邦が私は大好きです。これからも愛知東邦大学の名に恥じぬよう一生懸命頑張っていきます。

高校

東日本大震災被災者応援 〇泊三日ボランティア活動

東日本大震災のボランティアに東邦高校の生徒たち24人が参加しました。土砂降りと、午後からは強い陽差しのもとでの作業の中、机上では決して学ぶことのできないことをたくさん学んで、感じてきたようです。感想文から一部を抜粋します。

2年　林　龍斗

この活動は本当に自分の忘れることのない体験となりました。被災地を訪れたとき、今まで見たことのない光景が広がっていて、ただただ見ているだけで、言葉は出てきませんでした。ニュースや新聞で見るのと、自分のこの目で見るのとでは訳が違っていた。ほんとにここに家があったのか？と思ってしまうくらい何もかもが流されていた。自分の想像とは、まったく絶するものでした。

僕たち東邦生は、がれきの撤去をやったのですが、あれだけの人数、あれだけの時間を使ってもきれいになったという達成感は自分自身少しもありません。はっきり言うと、中途半端に終わってしまったなと感じます。もっともっと貢献したかった。まだまだやりたいことがたくさんあったと今は悔しい気持ちがあります。でも、被災者の方たちは僕たちボランティアが来てくれたこと、ただそれだけで大変喜んでくれたそうです。それを聞いて、自分も貢献できたのかなってすごく嬉しい気持ちになりました。

南三陸町　名足地区作業

行　事　予　告

愛知東邦大学

経営学部　地域ビジネス学科
人間学部　人間健康学科　子ども発達学科

◆オープンキャンパス

6／26(日)・7／30(土)・7／31(日)・8／10(水)
8／28(日)・10／2(日)・11／19(土)【大学祭共催】
受付：9：00～10：00　　開始：10：00

東邦学園同窓生入試

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校の卒業生の子または兄弟に対して入試を実施します。特典として愛知東邦大学入学金が半額になります。

東邦高等学校

普通科(文理特進・普通)
商業科(情報・経理・グラフィックデザイン)
美術科

夏休みから秋にかけて実施される行事を紹介します。

★中学生対象の行事

★美術科夏期講習会　※どちらか1日、要申込
7／28(木)・29(金)9：00～15：00

★商業科・普通科夏休み1日体験セミナー　※要申込
8／4(木)・5(金)午前、午後の2回実施

★部活動見学会　※要申込
8／27(土)10：00～12：00

★学校説明会　※事前申込不要
10／29(土)、11／12(土)、26(土)、12／3(土)
いずれも10：00～12：00

★美術科説明会　※事前申込不要
10／29(土)13：00～

★中学生英語スピーチコンテスト　※要申込
11／3(木)9：00～13：00

★グラフィックデザインコース講習会&説明会　※要申込
11／5(土)10：00～12：00

☆中学生も参加できる行事

☆文化祭　※中学生は制服＋生徒手帳持参で入場可
10／1(土)10：00～

☆美術科・グラフィックデザイン卒業制作展　※入場無料
10／25(火)～30(日)　愛知県美術館8Fにて

詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.toho-h.ed.jp/

TOHO gallery 東邦ギャラリー

東邦学園
キャラクターの名前決定
トーくん　ホーちゃん
（関連記事 15 ページ）

大学スポーツ大会
フットサルで優勝！

高校
マレーシアの高校生と交流
（関連記事 16 ページ）

東日本大震災の
物資支援を実施

期待の星　俳優　山口　翔悟さん

東邦高等学校　第 52 回卒業生

現在、月曜日８時放送の『ハンチョウ４』の刑事役で活躍中。

４月に放送された『歴史秘話ヒストリア・高杉晋作“愛され・やんちゃ”革命！～時代を変えた男の魅力～』では高杉晋作役を熱演。

『ハンチョウ』のワンシーン

全国大会出場！

東邦高校
柔道部　サッカー部　空手道部　ダンス部

柔道部 鈴木優奈さん
愛知県大会で優勝

全国総体愛知県大会で
中京大中京を破り完全優勝